

「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」提言への賛同について

住友生命保険相互会社(社長:橋本 雅博、以下「住友生命」)は、金融安定理事会(以下「FSB」)により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース(以下「TCFD」)」の提言へ賛同いたしました。

住友生命は、保険事業の健全な運営とその発展を通じて豊かで明るい長寿社会の実現に貢献するため、「CSR経営方針」に基いた経営を行っております。2018年には、国連が提唱し日本においても官民あげて取組みが図られているSDGsなど、CSRを取り巻く国際的な潮流を踏まえ、5つの「CSR重要項目」を策定いたしました。気候変動に関しては、CSR重要項目「ステークホルダーとの信頼関係の構築」およびSDGs「13.気候変動に具体的な対策を」に対応する事項として取組みを推進しております。

今後は、これまでの気候変動に関する取組みをより一層推進するとともに、TCFDの提言を踏まえた情報開示の充実を図ってまいります。

■TCFDについて

2015年12月にFSBが設置した、民間主導のタスクフォース。2017年6月に、企業が任意で行う気候関連のリスク・機会に関する情報開示のフレームワークを示した最終報告書(TCFD提言)を公表しております。

(TCFDウェブサイト:<https://www.fsb-tcfd.org/>)

■住友生命のCSR重要項目について

住友生命は、経営方針のひとつとして「CSR経営方針」を策定しCSR経営を推進しております。2018年には、CSRを取り巻く国際的な潮流を踏まえ、CSR経営を推進する上で重要となる項目(CSR重要項目)を策定しました。

【住友生命のCSR重要項目】

- ・ 保険事業を通じた健康寿命の延伸
- ・ 保険事業を通じた安心の提供
- ・ 持続的・安定的な成長の実現
- ・ ステークホルダーとの信頼関係の構築
- ・ CSRを支える経営体制

また、5つの項目それぞれについて、関連するSDGs目標との紐づけを行っております。(右図参照)

(住友生命公式ホームページ「CSR経営方針とCSR重要項目」:<http://www.sumitomolife.co.jp/about/csr/#sec03>)

